2010 年 1 月 28 日

野村不動産ホールディングス株式会社
（コード番号：3231　東証第一部）

報道関係者各位

2010年３月期第３四半期連結決算のお知らせ

野村不動産ホールディングス株式会社（本社：東京都新宿区　取締役社長：鈴木　弘久）は、本日、2010年３月期第３四半期連結決算（2009年４月１日～2009年12月31日）を確定いたしましたのでお知らせいたします。なお、詳細については、「平成22年３月期　第３四半期決算短信」を併せてご参照ください。

＜ハイライト＞

■2010年３月期第３四半期における連結業績は、売上高が2,760億円（前年同期比14.7％増）、営業利益が309億円（同3.7％増）、経常利益が201億円（同12.3％減）、四半期純利益が93億円（同31.1％減）となりました。前年同期比で売上高・営業利益が増加した要因は、住宅事業セグメントにおいて、高収益かつ大規模の分譲マンションの売上計上があったことなどによります。なお、経常利益・四半期純利益が減少した要因は、前年度12月に連結子会社化したNREG東芝不動産（株）の株式取得に伴う借入金増加分の支払利息や少数株主利益の増加などによります。

■住宅事業セグメント・・・マンションと一戸建てをあわせた住宅分譲部門では、売上計上（引渡）戸数が前年同期比49％増の2,012戸、売上高が前年同期比70％増の1,244億円となりました。なお、今期の売上計上予定4,200戸に対する12月末時点での契約済住戸の比率は約89％です。

■ビル事業セグメント・・・2008年12月のNREG東芝不動産(株)連結子会社化により、前年同期比で営業利益が66％増加しております。なお、空室率は９月末から0.8ポイントの悪化となり、12月末時点で4.6％となりました。コスト削減効果などを求めるテナントのオフィス縮小傾向が続くなど、需要は依然として弱含みとなっております。

■資産運用開発事業セグメント、仲介・販売受託事業セグメント・・・前年同期に比べ、収益不動産の売却が減少したことから、売上高、営業利益とも大幅に減少いたしました。ただし、仲介部門においては、個人のマイホームの売買を中心に取引が回復してきており、前年比で取引件数が増加するとともに、手数料収入も増加しております。

■業績予想・・・当第３四半期の業績は、10月に発表した通期の業績見通しに対し、想定の範囲内で推移しており、予想数値の変更はありません。

以　上

（添付資料）

平成22年３月期　第３四半期決算短信

本件に関するお問い合わせ窓口

野村不動産ホールディングス株式会社　広報IR部（片山・津賀）

TEL03－3348－8117　・　FAX03－3343－0445